



第69回

西日本 読書感想画 コンクール

優秀作品集

(総評・作品評) 西日本読書感想画コンクール審査員長 松久 公嗣氏 (画家、福岡教育大学教授)



主 催／九州・山口各県学校図書館協議会 西日本新聞社

後 援／文部科学省 九州・山口各県教育委員会 公益社団法人全国学校図書館協議会 福岡市教育委員会
特別協賛／株式会社アイ工務店



家族に愛を、住まいにアイを
アイ工務店



ひとつの点から 無限の花へ

審査委員長 松久 公嗣氏（画家・福岡教育大学教授）

魅力的な本を題材に、感動を自分なりに表現しようとする意欲あふれる作品が数多く見られました。子どもたちの素朴でみずみずしい感性は、学年が進むにつれて深みと彩りを増し、確かな芸術表現として花開いています。

先日、小学校の図工の時間に水墨画を教えていたとき、不安に思っていた子どもたちが「書写の点なら描けるよ！」と言ってくれました。そこで、小さな点は円く並べれば花となり、重なれば葉となることを伝えると、桜や菊、チューリップといった季節の花々が紙の上に咲き誇りました。

これは、私の大好きなピーター・レイノルズさんの絵本『てん』から発想した方法です。絵が「かけない」と思い込んでいた主人公は、先生の「なにかしるしをつけて」という言葉をきっかけに、一つの点から発想を広げ、内に秘めた表現の力に出会い、才能を開花させます。

無限の表現力を持つ子どもたちは、なぜ、自分は「描けない」と思い込んでしまうのでしょうか。

皆さんも、一つの「点」から始めてみてください。物語に触れて生まれた思いは何色に輝くでしょうか。胸に残る感動は、どれほど大きな輪となって広がるでしょうか。

点は線となり、線は面を生み出します。たった一つの「点」を描ける人は、すでに自分だけの世界を描く力を持っているのです。

指定図書一覧

小学校低学年 1・2年 の部

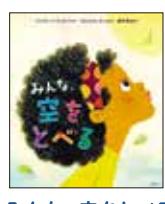
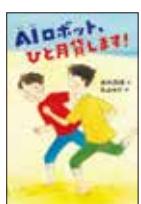


おふろ、はいる?



【文溪堂】

小学校中学年 3・4年 の部



【光村教育図書】

小学校高学年 5・6年 の部



【フレーベル館】

中学校 の部



※高等学校の指定図書はありません

＜最優秀賞・文部科学大臣賞＞(小学校低学年の部)

「まちをまもるかいじゅう」長崎県 波佐見町立南小学校 1年 市山 小夏

(書名『かいじゅうのすむしま』作・谷口智則／アリス館)

〔作画の動機〕わたしは、かいじゅうのすむしまをよんでかいじゅうがまちをまもりたいとおもっているところをかきました。

かいじゅうやしまをこまかくみどりやきいろ、みずいろでぬるのがむずかしかつたです。

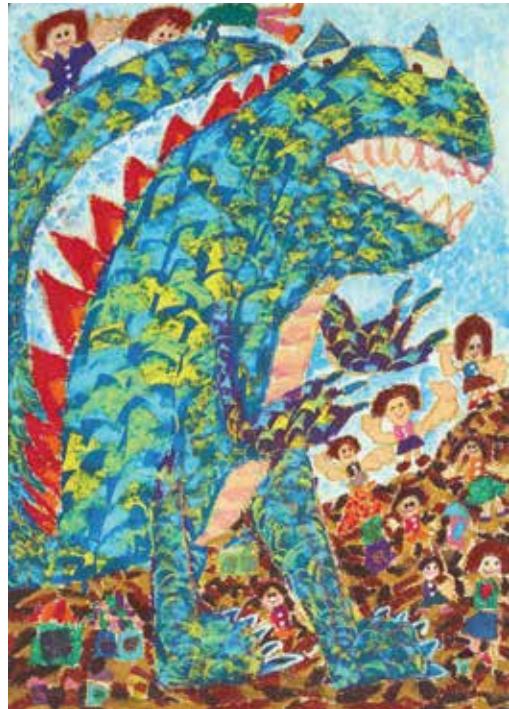
よくできたところは、かおのぜんたいがよくかけたところです。かいじゅうのめがやさしくかけたのでよかったです。

たいへんだったけどたのしくやれたのでたのしかったしうれしかつたです。

〔評〕小夏さんの絵にはいくつもの技がちりばめられています。クレヨンを使った表現を中心に、絵の具やクレヨンを重ねてからげずりとる「スクランチ」という方法や、うすめた絵の具をクレヨンの上から重ねてはじかせる「バチック」という方法がとても効果的です。かいじゅうのゴツゴツとした肌の感じがよく伝わってきます。

絵本の絵をまねながら、まったくちがった魅力を表現できているのは、ものがたりの世界の人とはちがって、かいじゅうの優しいきもちにきづいた人がいっしょに生活している姿を想像して表してくれているからでしょう。

小夏さんの絵の世界は、かいじゅうに育てられた赤ちゃんの、その後の世界かもしれませんね。



＜最優秀賞・文部科学大臣賞＞(小学校中学年の部)

「あわてるぼく」大分県 日出町立大神小学校 3年 大塚 陽太

(書名『はやく』と『ゆっくり』作・チャン・ホイチョン／光村教育図書)

〔作画の動機〕ぼくがこの本でくふうしたところはぐるぐる3つの時計です。なぜなら時計をかくのがむずかしかつたからです。3つの時計にはざまれて、こまつた気持ちを点と形で表しました。そしてぜんまいじかけの「ぼく」を表すのが一番むずかしかつたです。

大へんだったところは色をぬる時に、どんな色がいいか考えながらぬつたところです。紙いっぱいに色をつけて、すごい絵ができたと思います。

〔評〕読書感想画コンクールでは、心に残ったことや工夫した点を文章にして、絵の裏面に貼ってもらっています。この絵の魅力をもっと知りたくなった人は、ぜひその文章とあわせて鑑賞してみてください。

絵本では、文と絵によって思いが何ページにもわたって積み重ねられますが、陽太さんは、その内容を一枚の絵に表そうと、たくさん悩み、たくさんチャレンジしました。立ち止まり、考えながら、ゆっくりと色を重ねた時間と気持ちは、見る人の心を一瞬で引きつけます。陽太さんだけのリズムが、画面いっぱいに心地よく伝わってくる一枚です。



<最優秀賞・文部科学大臣賞> (小学校高学年部)

「今の幸せはふつうじゃない」宮崎県 えびの市立飯野小学校 5年 押川 恵央

(書名『ひろしまのピカ』 作・丸木俊／小峰書店)

[作画の動機] 今とは、別の世界みたいに悲さんな感じがした。目がいたくなるような、光が広島中に広がったところが心に残った。光が広島中に広がったとたん広島中の建物が一しゅんにしてくずれたと思った。この絵を描こうと思った理由は、またこのようなことが日本で起きないようにしたいからです。

[評] 絵には、さまざまな役割があります。原爆の悲惨な歴史は、絵や言葉で語り継いでいくべきものですが、絵本の巻末に記された丸木俊さんの言葉にあるように、考え方や感じ方、伝え方が、世代や経験によって違うことも大切です。そして、恵央さんがこの絵にこめた思いのように、平和や幸せを人々が同じように願う心こそが、未来へつながっていくのだと感じさせられます。

不安感を映した黄色い空を背景に、当たり前にあった幸せな時間が、ガラスのように砕けて失われる悲しさが静かに伝わってきます。世界の人々が、この絵と同じ思いを抱いてくれることを願わずにはいられません。



[指定図書の部]

<優秀賞> 「みんなてつだってあげようよ！」宮崎県 宮崎市立加納小学校 1年 マーティン 琉球

(書名『みつばちさんのティールーム』 作・ヘイリー・バレット／徳間書店)

[作画の動機] このえほんは、みつばちさんとすてきなおともだちのおはなしでした。みつばちさんのキッキンが、めちゃくちゃにちらかったときに、きりぎりすさんとありたちが、ちからをあわせてかたづけました。そのときのきりぎりすさんをわりばしペンで、おおきくかきました。きりぎりすが、はねをひろげて、すてきなきごえでないているようです。ありたちが、おしゃれをしてはたらいているようすも、たのしくかけました。

[評] 琉球さんは、きりぎりすさんとありたちが、ちからをあわせてかたづける場面に心を動かされ、その思いを絵に表してくれました。人を思いやる気持ちが一つふえるたびに、友だちの輪も、すこしづつ広がっていくように感じられます。

きりぎりすさんの大きな赤い羽はとても印象的で、黄色いはいのいのなかに、赤色や緑色、むらさき色がいきいきとひびき合っています。きりぎりすさんが奏でるすてきなき声は、ありたちといっしょにエクレアを食べながら聞いてみたいくなりますね。

キヨロッとした目玉は、まるい別の紙に描いてはりつけられており、この絵の主人公であるきりぎりすさんの表情が、目の動きとともに見る人にやさしく語りかけてきます。



<優秀賞> 「にじのかけはしとかいじゅう」福岡県 篠栗町立篠栗小学校 2年 東 美月

(書名『かいじゅうのすむしま』 作・谷口智則／アリス館)

[作画の動機] わたしがこの本をよんでわるいかいじゅうとおもわれてかわいそうにおもいました。ほんとうはやさしいのに、わるいとおもわれてるのがかなしかったです。

いろをませてぬるのがたいへんでした。とくにかいじゅうのいろぬりがたいへんでした。赤と青をまぜて、むらさきを作りました。そこをみてください。

[評] 美月さんは、かいじゅうの心にそつとよりそい、そのかなしい気持ちをていねいに表してくれました。さみしさやかなしさを感じるとき、そばにだれかのけはいがあるだけで心が強くなることを、この絵は静かに語りかけてきます。

工夫を重ねた色づくりや色ぬりによって、黄色や黄みどり色が浮かび上がり、かいじゅうの中にある希望の光を感じさせてくれます。黒いクレヨンを削って表したもようには、かなしみだけでなく、明るい未来へ向かうけはいも込められているようです。ていねいにぬられたかいじゅうのトゲやキバも画面のアクセントとなり、かいじゅうへのやさしいまなざしが伝わる一枚に仕上がっていきます。



＜優秀賞＞ 「雪まどのおでんはさい高！」宮崎県 小林市立南小学校 3年 大山 遼
(書名『雪窓』 作・安房直子／あすなろ書房)

【作画の動機】 雪まどのおでんは、大人気なので、さいごの場面で、森のようかいやおに天ぐたちもおでんを食べに来たと思います。みんなで楽しくおでんを食べているところをかきました。雪まどの屋台がよく目立つように、あざやかな色になるようくふうしました。

【評】 色々な生きものが集まり、にぎわっている様子が、生き生きと表現されています。

絵の具のにじみやパチック（はじき絵）の技法、スポンジでポンポンとたくように描かれた雪、スタンプで表された人々の気配からは、絵を描くことそのものを楽しんでいる達さんの気持ちが伝わってきます。その楽しさが、おでんを味わうあたたかな時間と重なり、画面全体に広がっています。

おやじさんの視線の向きと、鮮やかな色で描かれた屋台の斜めの線が、絵に心地よい動きを生み出し、話し声や湯気へのつた良い香りまで感じられるようです。寒い夜におでん屋の明かりを見つけたとき、胸の奥がぱっとあたたかくなる瞬間を、やさしく思い出させてくれる一枚です。



＜優秀賞＞ 「雪窓おでんおいしいな」長崎県 佐世保市立宮小学校 4年 藤本 悠月
(書名『雪窓』 作・安房直子／あすなろ書房)

【作画の動機】 このお話は、むすめをなくしたおでん屋のおやじさんがたぬきと出会ってなかよくなりながらなくしたむすめによくにた女人の人をさがしにとなりの村に行くお話を。

ぼくは、さいごの場面の村のみんながおでんをいつしょに食べる場面がおいしそうだと思ったのでかきました。がんばったことは、たくさんのお登場人物をかいたところです。雪をふらせたところをくふうしました。この雪がお気に入りです。

【評】 色々な人や生きものが集まり、楽しい時間がゆっくりと流れしていく様子が、画面いっぱいから伝わってきます。マジックで描いた下描きの上に色を重ね、最後にクレヨンで線を描き加えることで、キャンバス紙のデコボコと響き合い、素朴であったかな雰囲気が生まれました。鉛筆やマジック、クレヨンや絵の具など、材画によって線の表情が変わることに加え、紙の質感がここまで印象を左右することにも気づかせてくれます。丁寧に描かれた雪も、軽やかでやさしく、場面全体を包み込んでいます。

悠月さんがふしぎな手袋を持っていたら、どんなお店を開くのでしょうか。ほうつと心があたたかくなる屋台の世界を、これからも自由に広げていってください。



＜優秀賞＞ 「大縄とび大会の思い出」沖縄県 宮古島市立西辺小学校 5年 横村 渚
(書名『おおなわ 跳びません』 作・赤羽じゅんこ／静山社)

【作画の動機】 ぼくは、読んだ本のふたばという人物が、最初は、大縄とびをしたくないと言っていたけど、さいしゅう的に、目標よりも、1回多くとんでいたのがすごいと思った。また、この絵の大変だったところは、水さい色えんぴつで黒ねこの毛をかいたのが大変でした。工夫したところは、黒ねことかぶついている人や木、ぬのなどをちょっと光っているように見せるため、まわりをうすい白でぬつたことです。

【評】 この絵が見る人の心にそっと寄り添う印象を与えるのは、透明感のある淡い色使いと、水彩色鉛筆で丁寧に重ねられた黒猫の色合いによるものでしょう。少しづつ色を変えながら点々と重ねられた背景は、さまざま人の思いやかけ声が静かに広がっていくかのように、物語の世界を豊かに包み込んでいます。

黒猫ノビの姿を通して、主人公の双葉は自分の心を見つめ直しますが、その気づきは、すでに自分の中に答えが芽生えていたからこそ生まれたものでしょう。この絵の主人公はノビであり、双葉であり、そして渚さん自身でもあるように感じられます。重ねられた色と気持ちが一つになり、深い余韻を残す一枚に仕上がっています。



＜優秀賞＞ 「未来に羽ばたけ！」山口県 防府市立華浦小学校 6年 國徳 陸
(書名『ぼくの こころが うたいだす！』 作・アンドレア・ペイティー／絵本塾出版)

【作画の動機】 本を読んで、補聴器をつけている僕の姿を描こうと思いました。識字障がいのアーロンと、僕が重なって見えたからです。

この絵は、未来に向かって僕らしく羽ばたいていく姿を表しています。また、まわりの動物たちも、それぞれの個性を生かして競技に挑戦しています。

表現の仕方はひとつではないことを表すために、自由な色づかいで描きました。僕も「ほかのひとはちがう、ぼくだけのやりかたで」羽ばたいていきたいです。

【評】 陸さんは、物語の主人公に自分自身を重ね、未来へ羽ばたこうとする姿を自画像のように表現しました。読書感想画の良さは、物語の一場面を写すのではなく、物語を読んで心に残った感動や、広がった発想や想像の世界を大切にしているところです。

本に出会い、深く読み込むことで得た感動（感想）を絵で表現することは、個性に合わせた選択肢の一つとして、自身の可能性を探る手段を拡げることにつながります。

絵本の繊細な線描きの魅力を感じ取りながらも、それを自分独自の線の表現へと変化させ、これから自分を思い描いていところに、この作品ならではの力強さと魅力が表れています。



【自由図書の部】

＜優秀賞＞ 「悪いさるをやっつけたかにと仲間たち」長崎県 長崎市立西城山小学校 1年 浦川 実結
(書名『さるかにがっせん』 作・中脇初枝／ポプラ社)

【作画の動機】 いじわるなサルをみんなでおしにいったのがかんどうしました。かにをおおぎくかいたり、さるがバタンとたおれているようすをかいたり、ハチとうすとくりとうんちたちをリアルにかいたりするのをがんばりました。しゅじんこうのあかいかにのいろをぬるとき、いろをすこしづつかえて、きれいないろになるようにいねいになりました。

【評】 あか色って、いったい何色あるのでしょうか。カニの色、夕やけの色、くちびるの色、火の色、じょうねつの色……この世界は、たくさんのあか色であふれています。実結さんは、画面いっぱいにさまざまなあか色をつくり、さるをやっつけたカニやなかたちのよろこびを力いっぱい表してくれました。小学生のうちは、形を重ねて描くことがむずかしくなりがちですが、実結さんはカニに重ねてさるやなかまを描き、はくりょくのあるカニの姿と、物語の大切なワンシーンをうまく表しています。わりばしペンで描かれた線にも強弱があり、動きとおもしろさがよく伝わってきます。

＜優秀賞＞ 「にわとりと仲間たち」沖縄県 名護市立大宮小学校 2年 稲福 希一
(書名『コッケモーモー！』 作・ジュリエット・ダラス＝コンテ／徳間書店)

【作画の動機】 ぼくは、にわとりとほかの動物たちが合体している絵をかきました。なぜなら、にわとりとほかの動物たちのなき声をあわせるようすを絵であらわしたかったからです。動物たちはなき声を合体させて歌を歌っています。

海の生物にしたのは、はねる音や人には聞こえない音を出すので海の世界でにわとりがなき声をさがすがたを書きました。

【評】 絵本のお話からイメージをひろげて、希一さんは、おんどりが海のいきものたちといっしょに、たのしく歌うお話をえにしてくれました。たくさん絵を描いてあつめたら、希一さんだけのすてきな絵本ができそうですね。

おんどりと海のいきものが歌うせかいは、ゆめいっぱいですわくわくします。ぶくぶく、ぱしやぱしや、きゅるるる……いろいろな音やリズム、なき声がかさなって、絵の中からたのしい音楽がきこえてくるようです。クレヨンを何色もかきぬった絵も、音が絵になったみたいで、見る人の心をにこにこさせてくれます。

希一さんはどんな音楽がきこえているのでしょうか？

＜優秀賞＞ 「つかまりそうだ！」宮崎県 宮崎市立田野小学校 3年 作前 心渚
(書名『うしかたやまんば』 作・千葉幹夫／小学校)

【作画の動機】 ぼくは、牛方が山んばにおわれているところを書きました。理由はおわれているところがおもしろかったからです。

山んばの口を大きくしてはくりょくのある絵にしました。

わりばしペンに墨をつけてえんぴつでかいたところをなぞりました。

牛が鳴きながら走っているところをかきました。

絵をぬりおえたら絵をしわしわにして黒いインクを絵にぬりました。

おもしろい絵ができました。

【評】 このお話は、こわい山んばから、にげて、食べられ、またにげて……と、ハラハラするなかで、さいごには食べるほうが入れかわっている、ちょっとふしげでおもしろい昔話です。心渚さんの絵には、牛と山方がいっしょにけんめいにげる様子が描かれていて、見ている人もいっしょにドキドキしてしまいます。

絵をかいたあとに、紙をくしやくしやとまるめ、はんがのインクでできたもようは、水墨画のようで、昔話らしいふんいきをつくり出しています。心にのこった場面や、絵の具のにじみも、物語の世界とぴったり合つていて、絵の世界が一つにまとまり、はくりょくのある作品となりました。

＜優秀賞＞ 「おかしのエッフェルとう」福岡県 福岡市立姪浜小学校 4年 結城 璃音
(書名『ねこと王さま しごとをさがす』 作・ニック・シャラット／徳間書店)

【作画の動機】 私は王様が何度仕事をクビになってしまっても、親友のねことあきらめないで、ちがう仕事をちようせんするすがたに感動しました。そんな王様とねこが一生けん命に、はく物館の受付、交通指導員、カフェの仕事をしているところを描きました。工夫したところは、赤いドラゴンを赤色だけではなく、緑、黄、青色など、様々な色を使って描いたところです。おかしのエッフェルとうを見に来た、たくさんの人を描くのが大変でした。

【評】 王様があちこちでおしごとをするようですが、まるで絵日記を見ているようで、たのしい気持ちがつたわってきます。絵のまんなかにあるエッフェルとうの黄色い色と形が、ドッカリとすわって、にぎやかなでおしゃべりな人や色を、うまくまとめてくれていますね。

璃音さんは、王様やねこ、まわりの人やいきもの、くだものやおうちまで、見る人にわかりやすいように、やさしい気持ちでいねいに描いてくれました。この国は、えがおとしあわせでいっぱいの、たのしい国ですね。

何度もしごとをさがすの絵は、おもしろいところにちようせんする王様の、ぶきようだけどあたたかい心が、この絵からしっかりつたわってきます。



＜優秀賞＞ 「思い出の果て」福岡県 福岡市立長住小学校 5年 百武 さと
(書名『私だけの所有者（はじめての）』 作・島本理生／水鈴社)

〔作画の動機〕 内戦の中動けなくなった所有者ナルセは、所有者の命令通りにしか動けないアンドロイドの女の子に一人脱出するよう最後の命令を出します。本当はナルセからはなれたくない女の子に、ナルセと一緒にいることを選ばせてあげたくてこの絵を描きました。特に目は人形用の筆で点から描き視線を強調し、ナルセの右手には人の細胞を女の子の後ろにはＩＣを描き機械と人間の違いを表しました。建物やナルセのメガネから飛び散るレンズもがんばりました。

〔評〕 映画のポスターになりそうな印象的な一場面を、落ち着いた青い色調でまとめ、見る人の視線を一瞬で引きつける作品です。人物の顔や手、とりわけ眼の表現は、内面を伝えるうえで最も重要な要素ですが、さとさんは人形用の筆を使い、瞳に宿る光やまつ毛を繊細に描き出しました。揺れる髪やひそめた眉とあわせて、アンドロイドの少女の心の揺らぎが静かに、そして確かに伝わってきます。

ナルセの右手に描かれた細胞のように、点や線、ひびや汚れといった細部が互いに作用し、一枚の完成度の高い画面を生み出しています。筆や細部に強いこだわりをもつ姿勢からは、小学生とは思えないアーティストの片りんが感じられます。



＜優秀賞＞ 「混乱」福岡県 粕屋町立仲原小学校 6年 深田 陽菜里
(書名『くろねこのどん』 作・岡野かおる子／理論社)

〔作画の動機〕 私はこの本を読んで、猫が急にしゃべったり、猫が他の動物のように変身するところが面白いと思いました。

工夫したところは、猫の肉球を力ある絵にするために、色を重ねたり、暗いところや明るいところの色づかいに気をつけました。また、背景のぐるぐるや木のうねうねもようで、ねこの、力にとまどい、混乱する主人公の気持ちを表しました。

〔評〕 ねこは気今まで、つかみどころのない生きものです。黒ねこの“どん”も、えみちゃんに寄りそつたかと思えば言うことを聞かなかったり、遊んだり、あはれたりします。人とお話しできる不思議な力をもつところも、物語の大きな魅力ですね。

陽菜里さんは、そんな“どん”に振り回されながらも楽しい時間を重ねる主人公の気持ちを、ぐるぐるとうねる線や、泡のような水玉模様で表しました。

はじめて見ると、ヒョウの姿に変身した“どん”と、ジャングルの植物を思わせる緑の迫力が「ぎやおう」と眼に飛び込んできますが、明暗の差で構図を分割された背景にこめられた心情表現こそ、この絵の一番の見どころです。



<最優秀賞・文部科学大臣賞>

「歪」 沖縄県 沖縄市立越来中学校 3年 真栄城 心音
(書名『人間失格』 作・太宰治／新潮社)

[作画の動機] 「人間失格」を読んで感じたのは、人の弱さや孤独を誰よりも深く抱えた主人公の痛みでした。その歪んだ内面を魚眼で表現し、心に残った場面を獅子舞で象徴的に描きました。背景の彼岸花には「悲しき思い出」という花言葉を重ね、作品全体に切なさを込めています。顔に当たる光は、周囲の期待や視線に押し潰される葉蔵の姿を示し、画面の隅の水面には、道化として笑うしかなかった葉蔵の虚しさを映しました。

[評] 物語のどの場面やモチーフが心に残るかは、人それぞれ異なります。心音さんの心に残ったのは、主人公が父に抱く忖度の思いを象徴する獅子舞の獅子でした。正月の縁起物として知られる存在でありながら、この絵の中では、主人公の心を静かに食らう妖しい魔物として描かれています。

中学生になると、具体的なモチーフを用いて、目に見えない感情や関係性を象徴的に表す力が育ってきます。彼岸花や蛾、割れたガラスのように共通のイメージをもつものもあれば、獅子舞のように、見る立場や場面によって意味が変わるものもあります。統一感のある暗い色調の中に、獅子舞の赤や金を対比させた表現は、この作品の核となる独創性を際立たせています。



[指定図書の部]

<優秀賞> 「家族の形」 長崎県 長崎市立桜馬場中学校 1年 井手 菜乃花
(書名『あしたの幸福』 作・いとうみく／理論社)

[作画の動機] 私がこの本の中で印象に残ったのは、色々な家族の形があること、ビーフシチューを始めとする、様々な食べ物で家族がつながっている、ということです。そんなビーフシチューには、亡くなつたお父さんの事や、実の母、新しい家族となった父の恋人などの思いがついた物なのかと考えました。ペインティングナイフを使って、絵の具を重ね、時の流れや人々の思いを表現しました。

[評] 受賞作の多くが、技巧的な描写力や細部まで描き込まれた表現によって見る人を圧倒する中で、この作品は、気負いのない大胆な筆致で異彩を放っています。ザクザクと色を重ね、素早いタッチで仕上げられた画面は、表紙絵と同様に、この物語の世界観に自然に溶け込み、深い読解があつてこそ生まれた表現だと感じられます。それは同時に、菜乃花さん自身の個性でもあるのでしょうか。

写実的な表現とは異なり、いわきちひろの少女像のように、描けそうで描けない魅力がこの絵にはあります。ペインティングナイフによる淡い色彩は、透明な光のベールとなって私たちを物語の食卓へと誘い、その料理の味まで想像させてくれます。

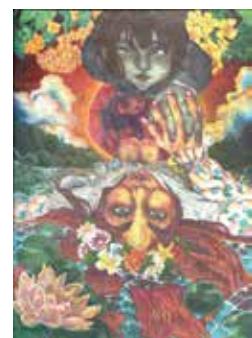


<優秀賞> 「エリンの世界」 鹿児島県 志布志市立志布志中学校 2年 日高 綾花
(書名『ハルカの世界』 作・小森香折／B L出版)

[作画の動機] エリンと遙が違う世界の中でも繋がっているというのをメインで描き、赤い月を全体的に輝かせるイメージでできるだけいろいろな所に明るい色を取り入れて描きました。しかし、遙はイド・モルゴルという滅びの世界の人物なので暗めに描きました。アウレリアのユニークな世界観を描くのにも、とても時間をかけて頑張りました。手前の白の蓮の花の「純粹」という意味を考えながら湖を色付けしました。

[評] 感受性豊かな中学生が想像と現実の世界を夢想することは、決して特別なことではありません。美術もまた、目に見えないものを思い描く営みです。しかし多感な時代には、その感覚が「ふしぎなもの」として隠されてしまうこともあります。

綾花さんは、物語の二つの世界と心の二面性を、上下に対比させる構図で表現しました。世界や人物、モチーフに込められた思いを、小森香折の文章をたどるように緻密に描き出している点が印象的です。この丁寧なこだわりこそが作品の個性であり、美術の世界へ踏み出した綾花さんだけが見ることのできる景色なのでしょう。色鉛筆による描写も本の世界と響き合い、画材の特長を生かした静かな魅力を放っています。



＜優秀賞＞「本当の自分とは」山口県萩光塩学院中学校3年岡本唯花

(書名『ハルカの世界』作・小森香折／BL出版)

【作画の動機】主人公「遙」の現実の世界と、入り込んだ絵の中の世界の「二つの世界」を表現した。周囲からの目を気にして劣等感を抱えた遙の重い心情を、顔の表情や背景の物・色彩で表した。逆に、王国アウレリアを、忍び寄る夢魔から守り抜くため、ユニコーンとともに勇敢に立ち向かう絵の中の遙の心情も表現した。二つの世界の狭間で自分の眞の姿について思い悩む遙。絵の上部は、遙の明るい未来を想像しながら、桜の花と明るい色調で表現した。

【評】指定図書は、選定委員の先生によって選ばれます。多くの入賞作を生む本もあれば、そうでない本もあり、どの物語が子どもたちの心を描く行為へと導くのか、常に思索が重ねられています。今回は『ハルカの世界』を題材とした作品が、優秀賞に二点選ばれました。

二項対比の描き方は読書感想画の定番でもあり、その構造をもつ物語は、現代の中学生の感受性に静かな火を灯したのでしょう。美術部に所属する主人公の設定も、描くことが好きな人が物語世界へ没入する大きな魅力となつたはずです。唯花さんの絵からは、画面のすみずみまで世界を満たすと、物語と絵の世界を何度も往復しながら、描くよろこびがいきいきと伝わってきます。



[自由図書の部]

＜優秀賞＞「私らしく、前向きに」長崎県佐世保市立広田中学校1年長井

(書名『YA！アンソロジー わたしを決めつけないで』作・小林深雪ほか／講談社)

【作画の動機】私は、「わたしを決めつけないで」という本を読んで、周りの人になにを言われようとも、自分らしく前向きになる主人公と、それを支えようとする友達の心の強さに感動しました。

私は、友達に助けてもらながら、自分らしさのあるほうへとあきらめずに手をのばし、上に向く主人公を描きました。そのために、上から、光がでるるようにしたり、主人公の色に、暖色が多くなるようにしたりして工夫しました。

【評】イメージは本来、自由に広がっていくものですが、物語のテーマにもあるように、誰かに決められた「らしさ」に閉じ込められると、心はしだいに窮屈になってしまいます。優奈さんは、その閉ざされた扉を押し開き、自分らしさを手に入れるための階段を昇っていく主人公を表現しました。

中学生になると、色や形の性質、表現の背景を学び、感じたことを意識的に構想して組み立てるようになります。優奈さんは、暖色と寒色の性質を使い分けながら、物語から得たメッセージを伝えようと試行錯誤しています。その積み重ねこそが、表現力だけでなく「人間力」を培う大切な経験となるでしょう。今回の受賞は、新しい一歩のはじまりかもしれません。

優奈



＜優秀賞＞「一部の真実」佐賀県佐賀市立城東中学校2年持永愛海

(書名『海のなかの観覧車』作・菅野雪虫／講談社)

【作画の動機】この本は主人公のうまがある日を境に幼い頃の記憶を辿り真実を突き止める小説です。背景にある海や砂は、この小説の話を進めてくれる重要な場所です。なので半分の背景を海にしました。この作品を描く中で工夫したことは、なるべく色を使いました。全体的に同じ色の配色になってしまったのでもう少し色を変える工夫をすればよくなつたのかなと思いました。

【評】この絵に描かれた光景は、決して明るい結末を迎えない、閉ざされた城のようにも見えます。そびえ立つ大きな手からこぼれ落ちる砂粒は、幸せを求める人々の魂なのか、それとも未来をつくるために失われていく記憶のかけらなのでしょうか。

描かれているモチーフは具象的でありますながら、その一つ一つに深い寓意が込められ、物語に登場する人物の心情が、愛海さんなりの解釈で再構成されています。中学生でここまで高い抽象性をもった表現に挑んでいる点は、非常に印象的です。

同系色でまとめた世界観に、透明感のある薄い絵の具をさらに重ねていくことで、白の表情に差が生まれ、空間や心情の奥行きが、より一層深まっていく可能性も感じられます。



＜優秀賞＞「異物」佐賀県佐賀市立城東中学校3年溝田彩乃

(書名『人間失格』作・太宰治／新潮社)

【作画の動機】この作品には本の中の主人公が人生で一生背負ってきたであろう人の常識の中で育っていく気持ち悪さと周りへの違和感を自分なりの見方で表現したいと思い、描きました。見てもらった人にどうやったらこの絵はどこか静かでどこか気味の悪いように感じてもらえるのかを色や構図を使って意識して描くところに苦心しました。

【評】彩乃さんは、ネオンカラーを用いて、80年前に描かれた『人間失格』の世界を現代の感覚でよみがえらせました。人に受け入れられようと仮面をかぶるながら、内側に不安や醜さを抱え込む太宰の「人間性」を写した主人公の姿が、今を生きる私たちにも重なって見えてきます。

作品は鑑賞者が自由に解釈できる開かれた表現であり、すべてを説明せす感じる余地がある点も魅力です。すべてを語らず、静けさや不気味さを残した表現は、見る人に解釈を委ねる開かれた魅力を持っています。

文学や美術、音楽の名作は、時代の変化を経てもなお、人を魅了する魅力を宿しているのだと、改めて感じることができました。



<最優秀賞・文部科学大臣賞>

「夢い」熊本県 熊本県立御船高等学校 2年 米村 亜彩

(書名『静かな雨』 作・宮下奈都／文藝春秋)

〔作画の動機〕 「静かな雨」を読んで、「生きること」について考えさせられた。こよみが記憶を失っていく中で、行動が変わらず寄りそい続ける姿が心に残った。人は過去を忘れても、その時の気持ちや思いやりは消えない。人と心がつながることが大切だと思った。悲しいけど、心に残る物語で、今ある時間を丁寧に生きることの大切さをあらためて感じた。そして、当たり前のような日々にも、かけがえのない瞬間がたくさんあることに気づかされた。

〔評〕 熊本の高校では、水準の高い、熱意ある美術表現に出会うことが少なくありません。米村さんもまた、主人公を映す人物像と、物語や感情を象徴するモチーフを構成する「型」を学びながら、そこに物語から受け取った感動や余韻を、自身の感性で編み直そうとしています。

料理のレシピと同じように、型の意味を理解した上でこそ、そこから踏み出す個性が生まれます。モチーフの配置や色の組み合わせ、重厚さと軽やかさをあわせ持つタッチの積み重ねに、その試みは確かに表れています。とりわけ、物語の一瞬を切り取り再構成する描写力は高く、宮下奈都のデビュー作がもつ初々しさと響き合いながら、表現することの喜びそのものが伝わってくる作品です。



[自由図書の部]

<優秀賞> 「れもんせんせい」熊本県 熊本県立大津高等学校 1年 佐々野 心

(書名『檸檬先生』 作・珠川こおり／講談社)

〔作画の動機〕 この本を読み進めるにつれて、読んでいる自分の中にじんわり檸檬先生という存在が形造られていくような感覚がありました。私はこの小説の主人公である少年も同じように、檸檬先生そのものであったり、檸檬先生に教えてもらったものに型どられているように感じたので、レモン色の光にぬれた少年を描きました。また、2人が来なくなった音楽室の寂しげな感じを演出できるように色味に気を遣って描きました。

〔評〕 この本の作者・珠川こおりは「色」を手がかりに青春の揺らぎを描く作家として、Z世代の新鋭と評されています。色は絵画やデザインの分野でも人の心理に大きく作用し、人は色のない世界では心のバランスを失うとも言われます。

佐々野さんは、物語から受け取った檸檬色を中心に、黒に頼らない暗いトーンで、繊細で静かな世界を描き出しました。音楽室に漂う光と陰の重厚な色調は、苦悩する主人公へのレクイエムのようにも感じられます。物語の中では主人公に見える色がどう変化していくのかとても気になりますが、佐々野さんの絵は、同じ作者の他の作品にも手を伸ばしたくなる衝動を与えてくれるような魅力で私を誘惑してくるものでした。



<優秀賞> 「また「普通」にもどるために」熊本県 熊本県立第二高等学校 1年 福島 咲来

(書名『二人一組になってください』 作・木爾チレン／双葉社)

〔作画の動機〕 一人一人の青春の思い出が、デスゲームによってこわされていく描写が印象にのこり、この作品を絵にしたいと思いました。デスゲームの地獄のような情景を奇妙な線や点で表し、そこから生き残り、また青空の下でいつも通りの生活をするための手段、「握手」をもとめる手を大きくかいて主役になるようにしました。それをじやまする1人の手、さまざまな感情を色で表現しながらも、流れやまとまりを感じさせるようにしたので注目してください。

〔評〕 この絵の魅力は、画面中央に据えられた「手」の表現に集約されています。凹凸のあるマチエールによって血の通ったアリティを感じさせながらも、どこか血肉を失った骨のような不穏さも漂います。物語の中では人の死が軽やかに描かれますが、現実を生きる私たちにとって命の重さとは何なのか、静かに問いかけてくるようです。

福島さんの作品は絵画的な描写力が際立つ一方で、画面構成やモチーフの配置にはデザイン的な発想も見られます。一部に緊張感を生む要素はあるものの、それが結果としてポスターのような強い印象につながっています。今後、学びを深める中でどのような変化を遂げていくのか、大いに期待が高まります。



＜優秀賞＞ 「孤独な羊」 熊本県 熊本県立御船高等学校 2年 佐藤 潤
(書名『初恋に追いついた日(眠れない夜は羊を探して)』 作・遠野海人／KADOKAWA)

【作画の動機】 この短編を読んで、一番印象に残ったのは、恋心に混ざった毒の表現だった。自分の想いを消したいという切ない想いや、届かない気持ちの痛みなどがリアルでとても共感できた。登場人物の気持ちはとても繊細で、初恋に追いついたはずなのに、その恋が報われるわけなく、むしろ心の中に静かな終止符が打たれるような感覚になった。そのもどかしさや、叶うはずのない恋心を抱えたまま日常に戻る感じもすごくリアルで共感できた。

【評】 「絵画的」、「デザイン的」という言葉を用いることがあります。奥行きや量感によって空間を感じさせる表現と、平面性を生かし色や形の関係や重なりで画面を構成する表現、と解説すると、言葉の意味合いが伝わるでしょうか。日本画が絵画と図案性を併せ持つように、両者は対立ではなく、相補的な魅力を備えています。佐藤さんの作品には、デザイン的に整理された全体構成の中に、確かな描写力と繊細な色彩感覚が息づいています。原作の主人公への共感と自己投影が素直に表れ、原作と同様に危うい心の葛藤を描きながらも、静かに未来を予感させる余韻の深さが、絵をみる人に内面的な奥行きを感じさせる作品です。



＜優秀賞＞ 「夢中になった探し物」 沖縄県 沖縄県立真和志高等学校 2年 玉木 朱里
(書名『ミッケ！』 作・ジーン・マルゾーロ／小学館)

【作画の動機】 私が昔から大好きな本なので、この本を選びました。この本は指定された物を本の絵の中から探しという内容で、一冊でとても夢中になれる本です。まちがい探しとは私たちがつった楽しさがあり、発見する力を身につけられる唯一無二の本です。読書感想画を描くというお題を聞き、まっ先にこの本で描きたいと強く思いました。中心に大きな目を描き、探しているということを強くアピールする構図を意識してミッケの独特な世界観を表しました。

【評】 玉木さんの作品は、今回の審査の中でもひとくわ異彩を放つ一作でした。本を読んだ感想を描くという枠を超えて、作品そのものへの愛情と深い理解が制作の動機として結実しており、その発想と構成には独創的な“異才”が感じられます。

原作のカラフルな世界に対し、緻密な線描によるモノトーン表現を選択しながらも、物語の本質的なイメージを的確に伝えている点が印象的です。じっくりと向き合うほどに、線の繊細さや構成力の確かさが浮かび上がり、技術が精神を超えると評されたヤン・ファン・エイクに通じる芸術観さえ感じさせる、記憶に残る作品です。



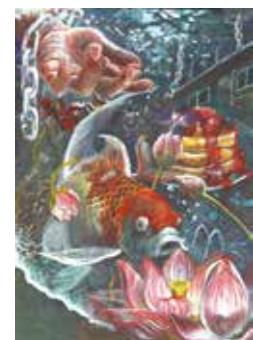
＜優秀賞＞ 「未練」 熊本県 熊本県立大津高等学校 3年 牛島 花凜
(書名『ホテル・ピーベリー』 作・近藤史恵／双葉社)

【作画の動機】 私はこの本を読んで、主人公の過去にとらわれすぎている心情にとても深く共感しました。過去の過ちを忘れるために今の都合が良い関係に溺れてしまう主人公の状態が今の私に似ていると思ったのでこの本を描こうと思いました。工夫したところは、海に沈んでいるように見せるため、物の上の部分を明るくし、下の部分を影にしておとしました。救いの手という今の関係から逃げ出したいという気持ちを表すため、手とは反対方向に鯉を描きました。

【評】 描かれる対象が何であれ、絵は本質的に自画像として読むことができます。芸術とは、何かを媒介として自己を表現する営みであり、何を、どのように描くかによって作者の個性が立ち現れます。

牛島さんは物語を読み進める中で、主人公の内に潜む負の側面に強く共感し、その「状態」そのものを描こうと試みました。作中のモチーフに寓意的な要素を重ね、心の在り方を可視化する手法によって、自画像に通じる絵画世界を成立させています。

寒色と暖色の対比は主役を際立たせると同時に、海中の上層と深層という上下の構造を奥行きとして融合させ、重層的な空間を生み出しています。



＜優秀賞＞ 「望む景色」 大分県 大分県立芸術緑丘高等学校 3年 義間 涼太
(書名『宇宙の声』 作・星新一／KADOKAWA)

【作画の動機】 私は少年少女二人が宇宙を舞台として星の危機を救うというスケールの大きな冒險に高校生ながらに心を躍らせながら読み進めることができたのが、この本の一番の魅力だと思います。また幼い人物が主に物語の中心になっており、どんな人でも行動を起こせば世界を変えられるという勇気をもらいました。宇宙というスケールと、そこから巻き起こる冒險への期待感が観る人に伝わるよう鮮やかな色彩による宇宙と登場キャラクターの構成を意識し絵を描きました。

【評】 余白に何を感じ取ることができるのかは、絵画における重要な問いの一つです。モチーフには形や実体があるため表現の手がかりを得やすい一方で、背景や奥行きを担う余白の表現には明確な正解がなく、作者の感性と判断が強く問われます。

義間さんの作品は、画面全体に流れる抒情的な空気感が大きな魅力であり、主役のまわりに広がる空間は、見る人に静かな余情や余韻を残します。その一方で、この余白を未消化な可能性として捉える見方も成立するでしょう。

松本峻介の作品など先達の表現に触ることで、余白が意味へと転じる瞬間を学び、さらに奥行きのある世界を創り出していくことを期待しています。



第69回 西日本読書感想画 コンクール入賞者

《最優秀賞・文部科学大臣賞》

(指定)	市	山	夏	南	小	1	長	崎
(指定)	大	塚	太陽	大	神	3	大	分
(自由)	押	川	怜	飯	野	5	宮	崎
(自由)	真	榮	心	越	來	3	沖	繩
(自由)	米	城	音	御	中	2	熊	本
		村	彩		高			

《優秀賞》— 指定図書の部 —

《優秀賞》—自由図書の部—

崎繩崎岡岡岡崎賀賀本本本繩本分
長沖宮福福福長佐佐熊熊熊沖熊大
年年年年年年年年年年年年年年年年
小小小小小小中中中中高高高高高高
山宮野浜住原田東東津二船和津綠丘
城大田姪長仲広城城大第御真大芸術
結一渚音と里奈海乃心來潤里凜太
実希心璃さ陽優愛彩咲朱花涼
菜川福前城武田井永田野島藤木島間
浦稻作結百深長持溝佐福佐玉牛義

《優良賞》— 指定図書の部 —

《優良賞》—自由図書の部—

《佳作》— 指定図書の部 —

岡岡崎本本分崎崎繩口岡賀崎本分崎崎繩口岡崎崎本分分崎繩繩繩崎崎分崎繩繩繩繩口岡崎
福福長熊熊大宮宮沖山福佐長熊大宮宮沖山佐長熊熊大宮宮沖山福長長熊大宮沖沖沖長長大宮沖
年年年
1111111122222233333333444444555555556666
小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小
西東鹿高千ノ木島滿陽免 東鹿高千ノ木島滿陽免 石田方納吉久崎松山西限江王水
志千星松八下須青糸向志橘福高緒加住天豊下北赤城力莊上大有泊山大
大教付山川塔野高添中台松森園岐久の川俣霸覇城陽東園
心輝智政人偉り貴羽真乃弥里聖華快平香大人緒縁織子介乃菜愛福煌莉太奈太織々美陽佳豊ね唯蓮芽里成アン子媛音哉喜
充晴李結陽あ梓隆柊梨橙朱弘彩 哲凜新篤美結彩凜駿愛花珠 玲日瑛真啓汐奈郁彩采琉あ結翠優知冠ハ
野崎川田中野川田平田田橋尾柏藤木田堅田本本村 島永村田萬城上黒島坪田原井脇田戸間田弘中善田俣 利平田崎
日尾小山田川山上宮森園石中興加鈴小具嘉橋浜下堺牛玉中原阿玉井大中大坂清玉宮堀木内石友田三梅狩ブ友川森松所

《佳作》 — 自由図書の部 —

* 努力校賞 *

《福岡県》

志免町立立立立立
志篠栗町立立立立立
志粕屋町立立立立立
志大川市立立立立立
志福岡大太

《宮崎県》

《佐賀県》

佐賀市立 嬉野市立 佐賀市立 佐賀市立 兵吉城鍋 庫田北島 小中中 小中中 学学学 学学学 学学学 学学学 校校校 校校校

《鹿兒島縣》

鹿兒島市立武志小中等校部

《長崎県》

《沖繩県》

《熊本県》

校校校校校
学学学学学
等
小 中 中 高
木 小 野 岳 院
良 道 矢 野 学
教 大 大 米 爱 女
上 天 草 市 立 信
山 鹿 市 立 本
上 天 草 市 立
山 鹿 市 立
熊 爱

《山口県》

山口市立 阿知須小学校
長門市立 向陽小学校
山口市立 さくら小学校
周南市立 岐陽中学校
宇部フロンティア大学付属香川高等学校

《大分県》

校校校校校
学学学学学
等等等等等
高高高高高
丘丘丘丘丘
西西西西西
綠綠綠綠綠
分分分分分
術術術術術
芸芸芸芸芸
大大大大大
県県県県県
立立立立立
市市市市市
筑筑筑筑筑
木木木木木
大大大分分
分分分分分
立立立立立
立立立立立
市市市市市
筑筑筑筑筑
木木木木木
大大大分分
分分分分分
立立立立立
立立立立立
市市市市市
筑筑筑筑筑
木木木木木

指導にあたって (先生より一言)

波佐見町立南小学校 1年担任 本多 千津子

子どもたちは、図画工作科の造形活動が大好きです。自分が表したいものを絵や立体に表現するとき、子どもたちの瞳はとても輝いています。

課題図書の「かいじゅうのすむしま」は、心優しい怪獣が人間の住む島を、災害や戦争から身を挺して守るお話で、子どもたちはとても心を動かされたようでした。

授業では、まず、心に残る場面や、物語のその後を楽しく想像させながら、下絵を描かせていました。

下絵は、黄土色のクレヨンで一気に描かせました。子どもが描く線には、一切の迷いがありません。とても一途で純粋な迫力があり、大人には絶対に描けない世界観が広がります。今回の受賞作品も同様で、怪獣の胴体も手や足も実際に伸び伸びとしており、周りで怪獣に笑いかけている子どもたちの表情も実際に無邪気で明るく、絵全体から優しさと温かさが伝わってきました。

着色では、基本、主になるところにはクレヨンを使い、バックは水彩絵の具で塗らせました。メインとなる怪獣の体は、スクラッチで表現させてみました。下塗りは、明るい3色程度のクレヨンで不規則なマス目状に丁寧に塗らせ、上塗りの色は子どもたちに自由に選ばせました。イメージに合わせて青・赤・緑・黒等で塗り、カラフルな怪獣が誕生して楽しかったです。

スクラッチは定規の角を使い、半月を描くように削ってみると、偶然ウロコのような面白い模様が浮かび、怪獣のイメージに合うスクラッチとなりました。バックは、水彩絵の具1~2色を使って塗らせ、濃淡が出るように水加減を調整しながら着色させていただきました。受賞作品の背景は濃淡のある青一色で、清々しい空気感を出しています。最後の仕上げとして、白・黄・青・ピンクのチョークを使ってバックに曲線を描かせ、流れのある空間を表現させました。

子どもたちが描く絵には、迫力と純粋さと温かさがあります。見れば見るほど、表現している空間が広がり、その世界観に引き込まれていきます。図画工作科の授業は、そんな子どもたちの豊かで力強い発想力や構想力を発見し、触ることのできる楽しい時間なのです。

日出町立大神小学校 3年担任 城 貴子

読書感想画の指導にあたって、私が心がけていることは、子どもが物語から受け取った思いを自分なりに広げながら、それぞれの感じ方を表現につなげることです。そのため、制作に入る前の図工の時間の最初に、必ず作品の読み聞かせを行いました。一度きりで終えるのではなく、場面の情景や登場人物の心情に着目しながら何度も読み返すことで、児童が物語の世界を深く味わえるようにしました。

読み聞かせ後には、「心に残った場面はどこか」「そのときどのような気持ちになったか」を言葉にする時間を設け、描く場面については児童自身が選ぶことを大切にしました。教師がイメージを一方的に示すのではなく、子どもが思いを自由にふくらませながら表現できるよう、色や構図、登場人物の表情などについて問い合わせを行い、考えを深める支援を行いました。

最優秀賞を受賞した児童は、普段から本を読むことや絵を描くことが大好きで、今回も物語を何度も読み返しながら、心が強く動かされた場面を丁寧に選び取っていました。下書きの段階から、登場人物の表情や背景の色について何度も描き直し、色の重ね方や配色を工夫しながら、思いがより伝わる表現を追求する姿が見られました。色塗りの過程では試行錯誤を重ね、自分なりに納得のいく表現を見つけていくことで、作品の完成度を一層高めていったと感じています。

本取組を通して、感じたことを表現することを楽しむ児童の姿が多く見られました。今後も図工の学習を通して、表現する喜びを育んでいきたいです。

えびの市立飯野小学校 5年担任 吉元 重行

感想画を描く以前に、普段から読書に親しむことが大事だと思っています。クラス全員で定期的に学校の図書室を利用したり、国語の授業で学習した教材と関連した図書を紹介したりして、まずは読書活動の機会を増やすようにしています。

実際の感想画指導においては、3つの段階に分けて取り組んでいます。

最初の段階では、「読書感想画準備シート」と名付けたワークシートを活用します。感想画を描くために選んだ本について、その本のどの場面が心に残ったのか。その場面や本(話)全体をとおして、考えたことや想像したことなどを短い文章で書かせます。

次の段階では、心に残ったことや想像したことをもとに、感想画の構図を自由にラフスケッチさせ、児童と対話しながらどのような構図にするかを練っていきます。

そして、最後の段階が、実際の画用紙を使った下絵・彩色です。

ラフスケッチで決めた構図をもとに、細かく丁寧に下絵を描いていきます。必要に応じて図鑑や写真なども使用させます。下絵が完成したら、絵の具で絵全体を薄く下塗りします。全体の下塗りが終わったら、絵の具で重ね塗りをし、さらに、クレヨンやペンなどを使って仕上げていきます。

以上の3つの段階で感想画を作成しますが、指導者の関わり方で最も大切にしているのが、児童との対話です。何をどのように表現したいのか、どこが難しいのかなどを児童と対話しながら、その中で技法的なことを個別に指導していきます。また、対話の中で、「ここがすごくいいね」「細かく丁寧に描いてるね」など、その児童の作品の良さや、取り組む姿勢の良さを褒めるように心がけています。それが、児童の意欲の高揚・継続につながり、完成時の満足感にもつながっていくと思います。図工は、基本的に楽しいと思える活動でなくてはならないと思っています。また、作品づくりが、自分を表現する場、自己肯定感をもてる場になればと思っています。

沖縄市立越來中学校 教諭 奥平 可南子

読書感想画は夏休みの「自由課題」として提示しています。そのため今回最優秀賞を受賞した本校3年、真栄城心音は美術への関心が高く、技術力もあり、努力家であることがわかります。真摯に自身と作品に向かい合った結果が受賞につながったと考えます。

読書感想画の指導としては、まず挿絵や外部の情報（映画化やアニメ化している場合）そのイメージにとらわれないことが重要です。本を読んで自分が感じたことを画面に表現する、そこからスタートします。今回、心音さんにエスキースを数点見せてもらいました。それらの画面構成に悩む場面も見受けられましたが、ここで気を付けなければならぬのが過度な指導や教師自身の価値観の押し付けです。基本的な技術面の指導以外は慎重に行動しなければなりません。私個人の指導としましては、生徒の納得している部分や面白い表現ができている部分を認め、悩んでいる部分は質問などをし、私を介し生徒自身を見つめなおせるようなコミュニケーションを心掛けました。すると私だけでなく家族、友人、後輩、学校司書など、作品を通じて他者との交流を広げていました。そこでさらに構想を練ったり美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしているのが見受けられ、嬉しく思いました。

色彩表現に関しては本人に一任しました。血管が透けるような不健康な色白さなど、彼岸花の赤暗さ、画面の切なさ、本人のこだわりが繊細に表現されています。そのひとつひとつが彼女の色彩感覚でありセンスが光っています。

今回の受賞は生徒の今後の進路の自信にもつながったと思います。これからも美術を楽しんでほしいです。

熊本県立御船高等学校 教諭 田畠 親士

読書は「知の翼に乗って過去や未来、世界中を旅することができる素敵なお活動です」という言葉を、20年前に読書活動推進フォーラムで教えていただきました。そのとき、聞きながらメモをしたことを今でも覚えています。子どもが読書によって培う感性は、あらゆる表現活動の原動力になると私は考えています。読書感想画の制作には、絵画の基本に欠かせない制作者としての姿勢を学ぶ要素が数多く詰まっています。「上手く描きたい」「褒められたい」と思う前に、「自分の心が何を感じ、何を人に伝えたいのか」といった、表現者にとっての基礎をしっかりと学ぶことができる活動です。

西日本読書感想画コンクールは、小学校低学年から高校生まで、子ども時代から思春期にかけての心の成長に大きく寄与していると感じています。これまでコンクールを支えてくださっている西日本新聞の皆様や、審査を担当される先生方のご尽力に心から感謝申し上げます。

普段の美術の時間では再現描写や写実表現が中心ですが、読書感想画になると目の色を変えて夢中で画面に向かう生徒が多くいます。絵の具の重なりや、偶然出会う絵の具同士の交わりによって生まれる画面の表情の変化を楽しみながら制作しています。正解・不正解のない活動は、友人関係に疲れてしまうときや、規則の多い学校生活の中での心の拠り所にもなっているようです。私自身も、生徒とともに純粋に絵画の面白さを楽しんでいければと思っています。

家族に愛を、 住まいにアイを。



アイ工務店は、
読書と創造の喜びを広げる
**西日本読書感想画
コンクール**を
応援しています。

本が想像を広げるよう、家づくりは思い描いた暮らしを形にする時間。
アイ工務店は住まいを通じて、「想いを形にする」お手伝いをしています。
安心、安全な適質価格デザインをご提供し、展示場は全国に303ヶ所※に展開中。

※2025年12月末時点(アイスタジオ含む)



家族に愛を、住まいにアイを
株式会社 **アイ工務店**
会社 <https://www.ai-koumuten.co.jp/>

本社

〒530-0001
大阪市北区梅田1丁目13番1号
大阪梅田ツインタワーズ・サウス15階
Te I.06-6227-8288
Fax.06-6227-8038

九州の
展示場は
コチラ
から▶



アイ工務店公式
Instagram



アイ工務店公式
YouTube





西日本新聞社

〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号

最新情報は
Xで発信中！

